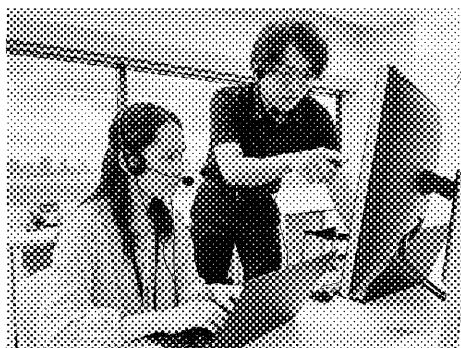


AIで人工音声合成



目的に応じて最適な翻訳・音声合成のソフトウェアを選ぶ

提供を始めるサービスは「AIナレーション」。動画のナレーションを文字起こした上で機械翻訳し、そのデータをもとにAIで人工音声合成する。翻訳後の言語を母国語とするスタッフが読み間違いなどをチェックし、動画を挿入した上で検品し、動画ファイルとして納品する。翻訳・音声合成のソフトウェアは、複数保有する中から顧客の用途に合わせて選び、翻訳、合成後にあらためて人が確認して品質を確保する。英語、中国語、フランス語など30言語に対応する。一般的な「ライト」と、音声のイントネー

ションを補正して自然な語り口調にする「フル」の2タイプを用意。消費税抜きの料金は言語や内容などの条件によるが、10分当たり2万8000円から。顧客にとっては翻訳と音声合成をそれぞれの企業に発注する手間がかからない。

海外向け製品の販促、展示会の案内、マニュアルのほか、多国籍人材の教育・研修用などとして音声付動画を他言語に変えて使う用途を想定している。1972年設立のホンヤク社社員数は61人。世界50カ国超に住する翻訳者1500人とスタッフ契約を結んで翻訳業を展開し、2021年3月期の売上高は10億円。

ホンヤク社、新たな柱に

動画向け料金・納期最大70%減 ナレーション

ホンヤク社（東京都港区、原田真社長）は、人工知能（AI）を使ったナレーション事業に進出する。依頼動画の音声が必要に応じて翻訳し、人工音声をつけるサービスを28日に始める。ナレーターが吹き込む同社従来サービスに比べ料金、納期とも50〜70%減。拡大する動画の多様なニーズを取り込む。機械翻訳関連サービスと並ぶ成長事業に位置付け、3年後には売上高1億円規模に育てる。